



学校だより

9月号

横浜市立大道小学校

令和8年8月27日

かげおくり

校長 活田 宏輔

「私は日本に生まれてきてよかった、なんて言葉を軽々しく口にできません。」

今から30年程前に初めて6年生を担当した時の子どもの言葉です。当時、東南アジアにまだ埋まっている地雷で傷つく子どもたちのことを知り、ノートに感想を書きました。その一文は、今でも私の胸に残っています。

私が子どもの頃から、夏になると戦争に関する特集番組や映画、アニメなどが放映されてきました。終戦から81年を迎え、今年も各地で平和について考える機会が設けられています。世界に目を向けると、今なお武力による衝突や争いが続いています。ニュースを見ながら、戦後に日本では長く続いている平和が薄い氷の上で維持されているようにも見えてきます。

小学校では、6年生の歴史学習以外にも戦争を扱った教材がいくつかあります。3年生の国語「ちいちゃんのかげおくり」(あまんきみこ作)、4年生の国語「一つの花」(今西祐行作)は、保護者の皆様にも教科書で学習した記憶があるのではないのでしょうか。現在も多くの学校で子どもたちが学んでいる教材です。

私もかつて担任として、子どもたちと校庭で実際に「かげおくり」をしてみたり(3年)、「一つだけちょうだい。」という言葉に込められた意味や時代背景を考えたり(4年)しながら授業を行いました。しかし今、この作品をじっくりと読み返すと、限りなく重いテーマに胸が苦しくなるのを感じます。そしてその想いは、年を重ねるごとに強くなっています。愛情に包まれた家族が離れ離れになることが当たり前であった戦争という背景。一人取り残された主人公のちいちゃんが飢餓でもうろうとした意識の中、空の花畑の中で家族に再会する夢を見ながら天に召されていくという結末。この夏、改めて子どもの教科書に目を通してみてはいかがでしょうか。

平和について考えるとき、現在女優として活躍している前述の教え子の言葉がいつも胸に浮かびます。昨今の異常気象への対応、加えて交通安全や防災、防犯など、子どもたちの安心・安全を守る取り組みは、どれ一つ欠かすことができません。しかし、平和という視点は決して疎かにすることなく教育活動を推進していきたいと改めて思いました。



←学校 WEB ページは
こちらから